Panasonic

保管用　屋内専用

シンプルP-1シリーズ

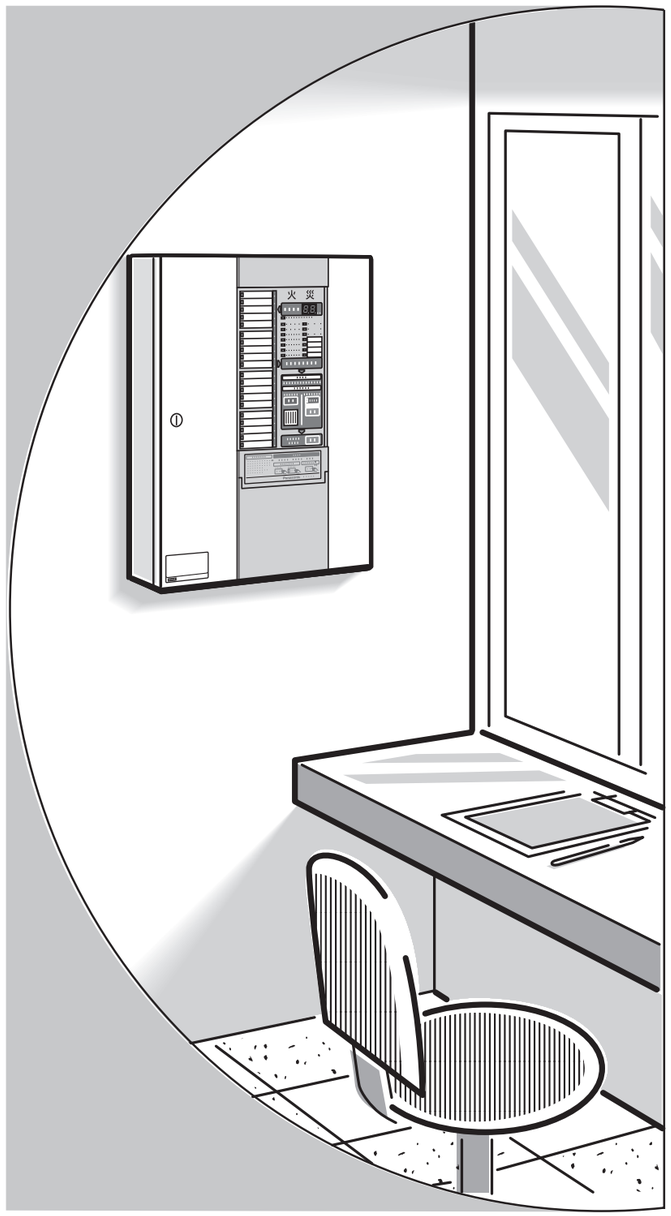
P型1級受信機

露　出　型：品番 BVJ141□□

埋込型内器：品番 BVJ141□□1（□□は回線数）

施工説明書

●正しく施工していただくために必ずお読みください。



施工される前に

●施工するには、電気工事士・消防設備士（甲種第4類）の資格が必要です。
●施工後、必ず施主様に商品説明をしていただき、取扱説明書と施工説明書をお渡しください。
●万一、施工説明書にしたがわず施工された場合の事故や故障などについては責任を負い兼ねることがあります。
●火災などによる損害については責任を負い兼ねますのでご了承ください。

●受信機の連動データなどのソフト設定内容の記録は施工責任者が保管してください。

●ソフト設定が必要です。
必ず設定マニュアルを参考に設定作業をしてください。

⚠警 告

●受信機の表面が汚れた場合、水をつけたり・水をかけたりして汚れを落とさないでください。
感電・故障の原因となります。
（詳しくは取扱説明書の「お手入れ方法」10ページを参照してください。）

⚠注 意

●露出型の受信機の扉の開閉にはご注意ください。180°以上、扉を開けると扉の変形や他の物品を破損するおそれがあります。

パナソニック電工株式会社　HA・セキュリティ事業部
〒514-8555 三重県津市藤方1668

生産終了品
この商品は生産終了につき製造することができません
© Panasonic Electric Works Co., Ltd. 2010

8A2 A61 00004　S0803-30410A

安全上のご注意　■必ずお守りください

⚠警 告

●ぬれた手で受信機をさわったり、水をつけたり、水をかけたりしないでください。
感電・故障の原因となります。
●電池は必ず接続してください。接続していないと停電時に機能しません。
●AC100V専用です。接続前に入力電圧の確認をしてください。
それ以外の電圧では故障の原因となります。
●受信機は施工説明書にしたがい、その質量に十分耐えるように、強固に取り付けてください。安易な取り付けは脱落によりケガの原因となります。
●受信機の表面が汚れた場合、水をつけたり、水をかけたりして汚れを落とさないでください。感電・故障の原因となります。
（詳しくは取扱説明書の「お手入れ方法」（10ページ）を参照してください。）

⚠注 意

●アースの接続は確実に行ってください。
使用時や漏電のときに感電するおそれがあります。
●据付作業は落下防止のため、必ず2人以上で作業してください。

もくじ

1. 付属品 …… 1
2. 施工上のご注意 …… 1
3. 機能設定 …… 2
4. 取付方法 …… 4～7
　●露出型の場合 …… 4～5
　●埋込型内器の場合 …… 6～7
5. 全体の接続方法 …… 8～9
6. 接続個数 …… 10
7. 地区ベルとの接続 …… 11
8. 非常放送設備との接続 …… 12
9. 住宅情報盤との接続 …… 13
10. 住宅情報盤と非常放送設備（音声警報機能付）との接続 …… 14
11. 地区表示・諸警報表示・その他のラベル表示について …… 15
12. 施工後の確認方法 …… 16

1. 付属品

●取付用部品 工事用 （終端抵抗器など）…1セット
●予備品 保管用 （ヒューズなど）……1セット
●電話機……2台
●収納袋……2枚
●電池……1コ
●施工説明書（本紙）……1冊
●取扱説明書……1冊
●設定マニュアル……1冊
●設定シート……1枚
●設定表……2枚
●パナソニック電工お客様ご相談窓口のご案内…1枚

2. 施工上のご注意

●この商品は 屋内専用 です。屋外・屋側には設置しないでください。
●接続機器については、その商品に付属の説明書をよくお読みください。

■次のような場所には設置しないでください。
（誤動作・故障の原因となります。）
●直射日光の当たる場所
●水滴、蒸気、ホコリなどがかかる場所
●周囲に操作上支障となる障害物のある場所
●衝撃、振動などの影響を受ける場所
●常に人がいなくてようすを確かめられない場所
●薬品などのガスが発生する場所
●強電界やノイズの発生する場所

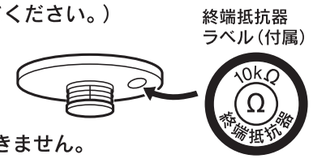
■地区ベル接続時のご注意

●必ず受信機の地区ベル接続容量以内でご使用ください。
●建物のリニューアル時などで受信機を交換する場合は下記内容にご注意ください。
1.地区ベルが当社BV9212・BV9213の場合はBV92631・BV92641に、当社BV9214・BV9214Kの場合はBV92541・BV92551に交換が必要です。
2.地区ベルが他社製の場合は、地区ベルのメーカーに駆動方式が電磁式でないことを確認してください。電磁式の場合は、受信機の内部回路を破壊するおそれがあります。

施工時のご注意

●工事・施工時のゴミなどは機器の中に残さないでください。ショートや故障の原因となります。
●電線接続部は圧着スリーブなどで行い、絶縁処理をしてください。
（電線をよじっただけでは、長期使用中に電線表面が酸化接触不良をおこし誤報の原因となります。）

●強電ライン・AC100V配線と小勢力配線はできる限り離して施工してください。
強電ライン・AC100V配線が小勢力配線の近くにあると誤動作の原因となります。
●接続方法に示す機器以外の機器を接続する場合には、当社へご相談ください。
不適切な接続は誤動作・故障の原因となります。
●他社商品との接続は、仕様をよく確認してください。仕様が合わないと不動作や故障の原因となります。
●アースは必ず接続してください。（D種（第3種）接地相当以上（100Ω以下）としてください。）
●感知器配線の終端に終端抵抗器〔10kΩ〕（付属）〔当社品番：BV9840010〕を
取り付け、終端抵抗器ラベル（付属）を貼り付けてください。
また受信機の交換時は、終端抵抗器をご確認ください。
指定以外の終端抵抗器は使用しないでください。



●蓄積型感知器・蓄積式中継器・火災表示灯〔BV9401K・BV9411K〕は、接続できません。

■速結端子のご使用方法

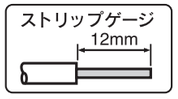
●電線は必ず右記の単線を使用してください。

AC100V端子	ø1.6～ø2.0
小勢力端子	ø0.9～ø1.2

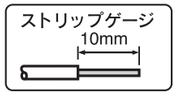
電線の接続方法

●速結端子への入線は、1端子あたり、1本にしてください。
注 曲がった心線は使用しないでください。
接触不良などをおこし、不動作の原因となります。

AC100V端子 ●ストリップゲージに合わせて電線の被覆を12mmむき、1心線を奥まで確実に差し込む。

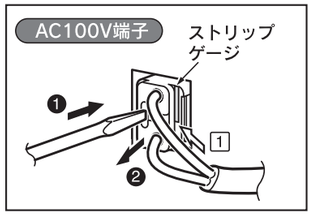


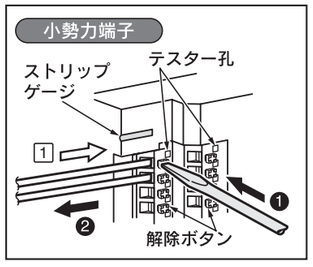
小勢力端子 ●ストリップゲージに合わせて電線の被覆を10mmむき、1心線を奥まで確実に差し込む。



電線のはずし方 ❶電線を速結端子と水平にして、⊖ドライバー（小）で解除ボタンを押しながら
❷電線を引き抜く。

導通確認のしかた テスター孔にテスター棒を差し込めば 結線したまま導通確認などができます。（小勢力端子のみ）





3. 機能設定

(注) そのほかの機能設定については付属の設定マニュアルを参照してください。

❶あき回線登録スイッチ

●終端抵抗器が接続されていない回線を登録します。

(注) 受信機の電源を切にした場合でも登録は解除されませんが、増設などにより終端抵抗器を接続し使用回線とする場合は再登録をしてください。

S4 あき回線登録

❷現場調整設定スイッチ

●連動データ設定などのソフト設定をするときに使用します。
詳しくは設定マニュアル(7・8ページ)を参照してください。

(注) ソフト設定以外は「定位」側にしてください。

S3 現場調整設定
設定 ⟷ 定位

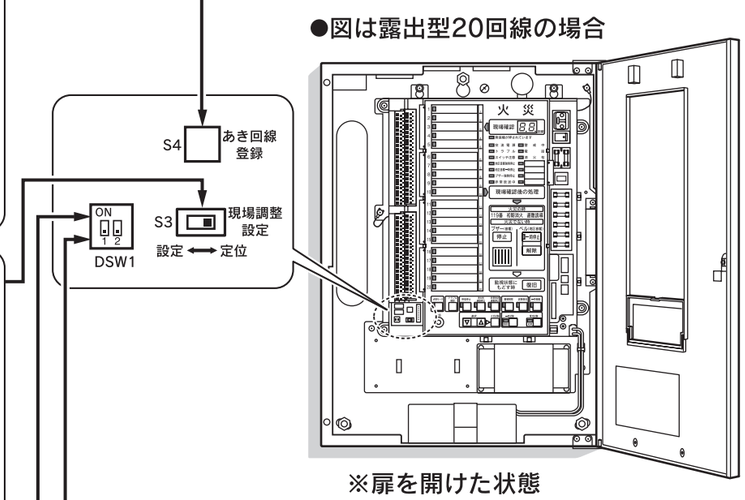
❸トラブル音響停止設定スイッチ

ON 1 2 DSW1
停止 ↕ 鳴動

❹一斉鳴動移行停止スイッチ

ON 1 2 DSW1
移行停止 ↕ 移行する

●図は露出型20回線の場合



※扉を開けた状態

❶あき回線登録スイッチ

1. すべての結線が完了後、通電を行い本体内部のあき回線登録スイッチを押してください。
これであき回線はすべて登録されます。

(注) **約5秒間は受信機の電源を切らないでください。**

2. 一斉試験をしてあき回線が、確実に登録されたか確認してください。**(取扱説明書29・30ページ参照)**
もし使用回線表示試験のときに感知器および発信機の接続回線であるにもかかわらず、その地区灯が消灯している場合は終端抵抗器の接続忘れか配線が断線していますので処置してください。
あき回線登録は自動解除しません。変更する場合は、再登録してください。

❷現場調整設定スイッチ

●連動データ設定などのソフト設定をするときに使用します。
詳しくは設定マニュアル(7・8ページ)を参照してください。

(注) **ソフト設定以外は「定位」側で使用してください。**

出荷時設定
S3 現場調整設定 設定 ⟷ 定位

❸トラブル音響の鳴動・停止の設定方法

●トラブル灯が点滅したことを音響にて知らせる機能です。
トラブル音響を鳴動させない場合は、本体内部のトラブル音響設定スイッチを「停止(ON)」側に設定してください。

出荷時設定
トラブル音響鳴動する(「OFF」側)

❹一斉鳴動移行停止設定スイッチ

●「220号特例の住棟受信機として使用するとき」または、「非常放送設備を接続するとき」は、本体内部の一斉鳴動移行停止設定スイッチを「移行停止(ON)」側に設定してください。

出荷時設定
移行する(「OFF」側)

MEMO

4.取付方法

露出型の場合

注 受信機の下からの露出配管は、電池収納スペースのためできません。

1 取付位置を決め、取付用プラグボルトを打ち込む。

- ●プラグボルト(M6)(市販品)の打ち込みと、配線を引き込む位置は下図の取付寸法図のとおりです。
- ●中央部のプラグボルトは、露出ボックス取り付け時の位置決め用としてご利用ください。
- ●この商品の取付穴寸法は φ10です。
- ●露出ボックスの底上げは18.8mmです。
- ●AC100V配線と小勢力配線を下図の位置より引き出してください。

注 本体の操作スイッチ部が床面から800mm～1500mmの位置になるように取り付けてください。 図1参照

取付寸法図

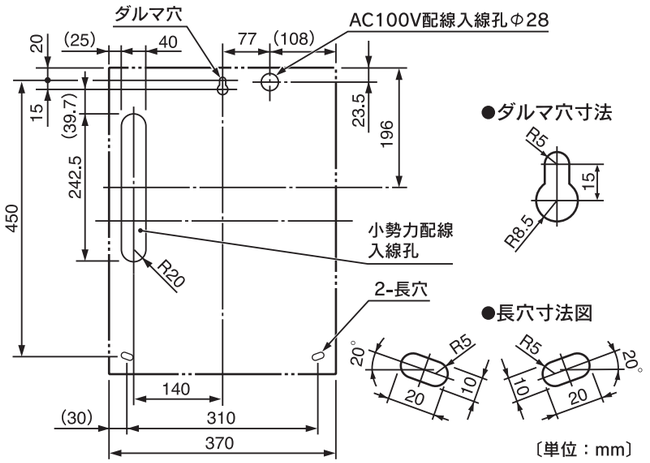
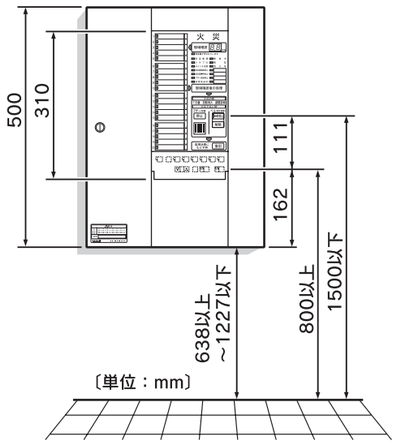


図1

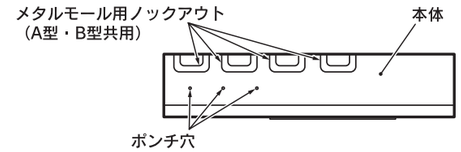


露出配線する場合

■本体から内器を取りはずしてください。 図3参照

1. 内器のアース端子を本体から取りはずす。
2. 内器の上部ダルマ穴ネジ(2ヵ所)をゆるめる。
3. 内器の左側中央部ネジ(1ヵ所)、下部ネジ(2ヵ所)を取りはずし、内器を取りはずす。

上から見た図



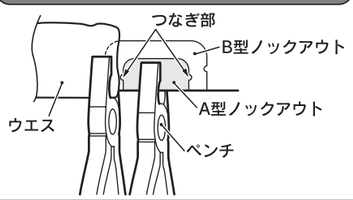
⚠警 告

入線孔をあける場合は必ず内器(図3参照)をはずしてから行ってください。金属片が本体内部に入り、機器の故障の原因となります。

丸型配管使用時

- ●ポンチ穴に穴あけ加工を行ってください。
- ●穴径はφ25mm以下としてください。

メタルモール使用時



A型ノックアウトを切り取る場合

注 ●B型ノックアウトや本体が変形・破損しないようにペンチでウエスなどをはさんでください。
●つなぎ部近くをペンチなどで左右片側ずつ切り取ってください。
(図は左側のつなぎ部を切り取る場合)

2 入線を行う。
- ●AC100V配線および小勢力配線を分割して入線してください。

3 プラグボルト3ヵ所で本体を壁面に固定する。

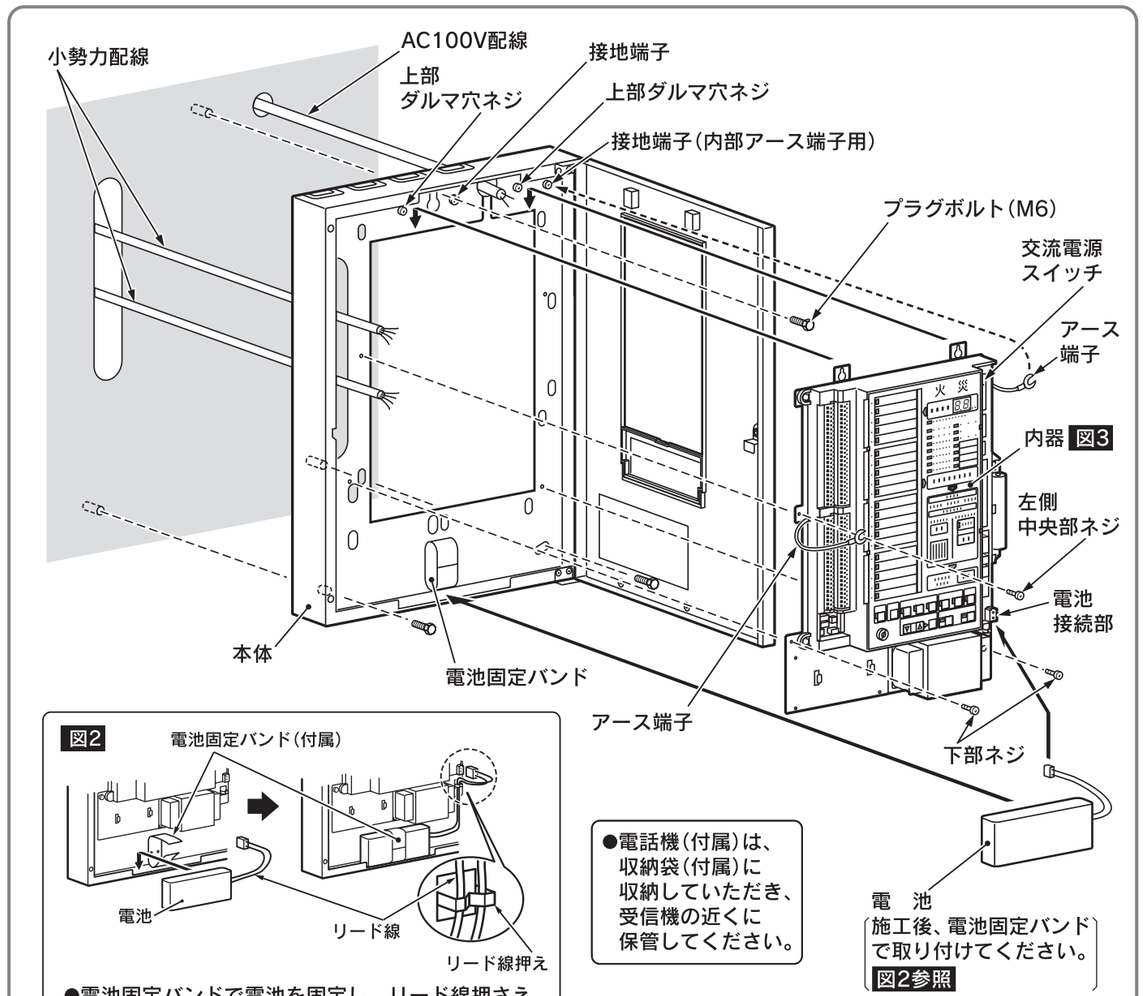
注 床面に対し、垂直になるように取り付けてください。
傾斜角が大きいと受信機の扉の開き方が悪くなる場合があります。

4 配線する。※「接続方法」参照(8～14ページ)

5 交流電源スイッチを「入」側にする。

6 電池のコネクタを取り付ける。 図2参照

7 本体の扉を閉める。



●電話機(付属)は、収納袋(付属)に収納していただき、受信機の近くに保管してください。

図2

●電池固定バンドで電池を固定し、リード線押さえに電池のリード線をはさみ込んでください。

4.取付方法

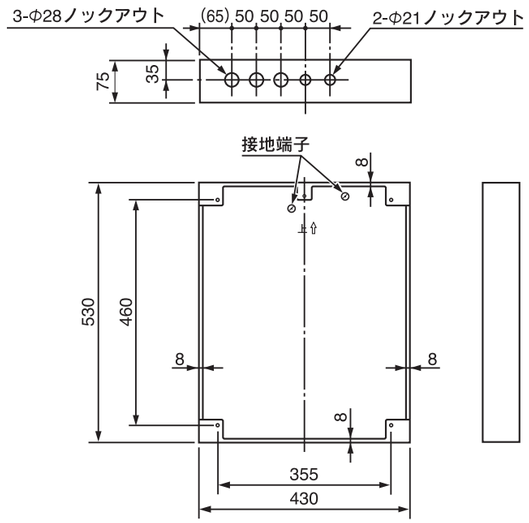
埋込型内器の場合

㊟
本体の操作スイッチ部が床面から800mm～1500mmの位置になるように取り付けてください。

図1参照

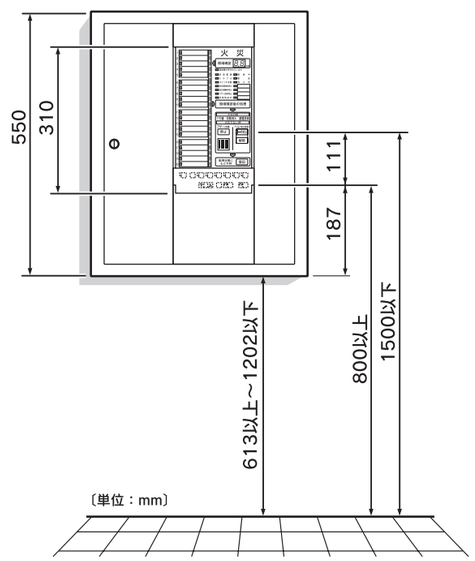
取付寸法図

●埋込ボックス1型（BVJ8300K）の場合



〔単位：mm〕

図1



1 入線を行う。
●AC100V配線および小勢力配線を分割してください。

2 埋込ボックス（別売）を取り付ける。
●埋込ボックス1型（BVJ8300K）を使用してください。
㊟ ●上下を間違わないように埋込ボックス内の表示マーク（上 ⇧）が上にくるように取り付けてください。
●床面に対し、垂直になるように取り付けてください。傾斜角が大きいと受信機の扉の開き方が悪くなる場合があります。

3 埋込ボックス（別売）のB部に引っ掛け用ネジを取り付け、本体の扉をあけ、A部を取り付けた引っ掛け用ネジに引っ掛ける。

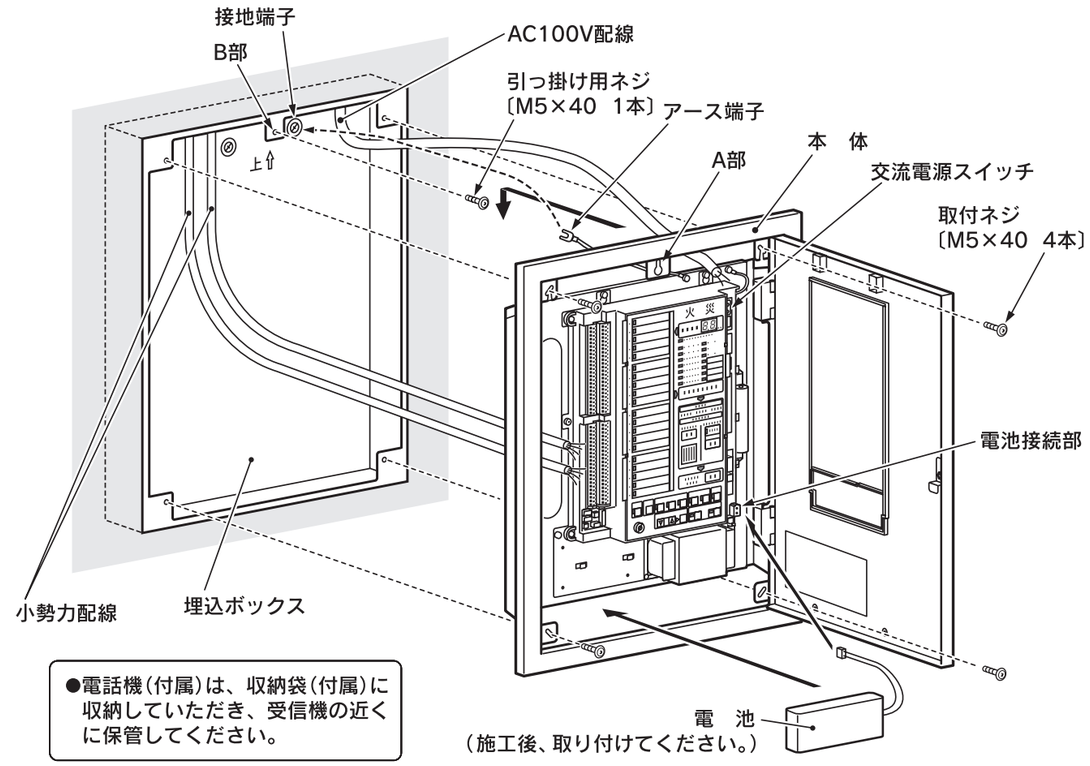
4 取付ネジ（4ヵ所）は、初めに仮止めする。
●本体の取付ネジ穴4ヵ所は、すべて長穴（5.5×14）となっていますので、埋込ボックス側面に本体枠側面を合わせながら、取付ネジおよび引っ掛け用ネジをしめつけてください。

5 配線する。
※「接続方法」参照（8～14ページ）

6 交流電源スイッチを「入」側にする。

7 電池のコネクタを取り付ける。

8 本体の扉をしめる。



●電話機（付属）は、収納袋（付属）に収納していただき、受信機の近くに保管してください。

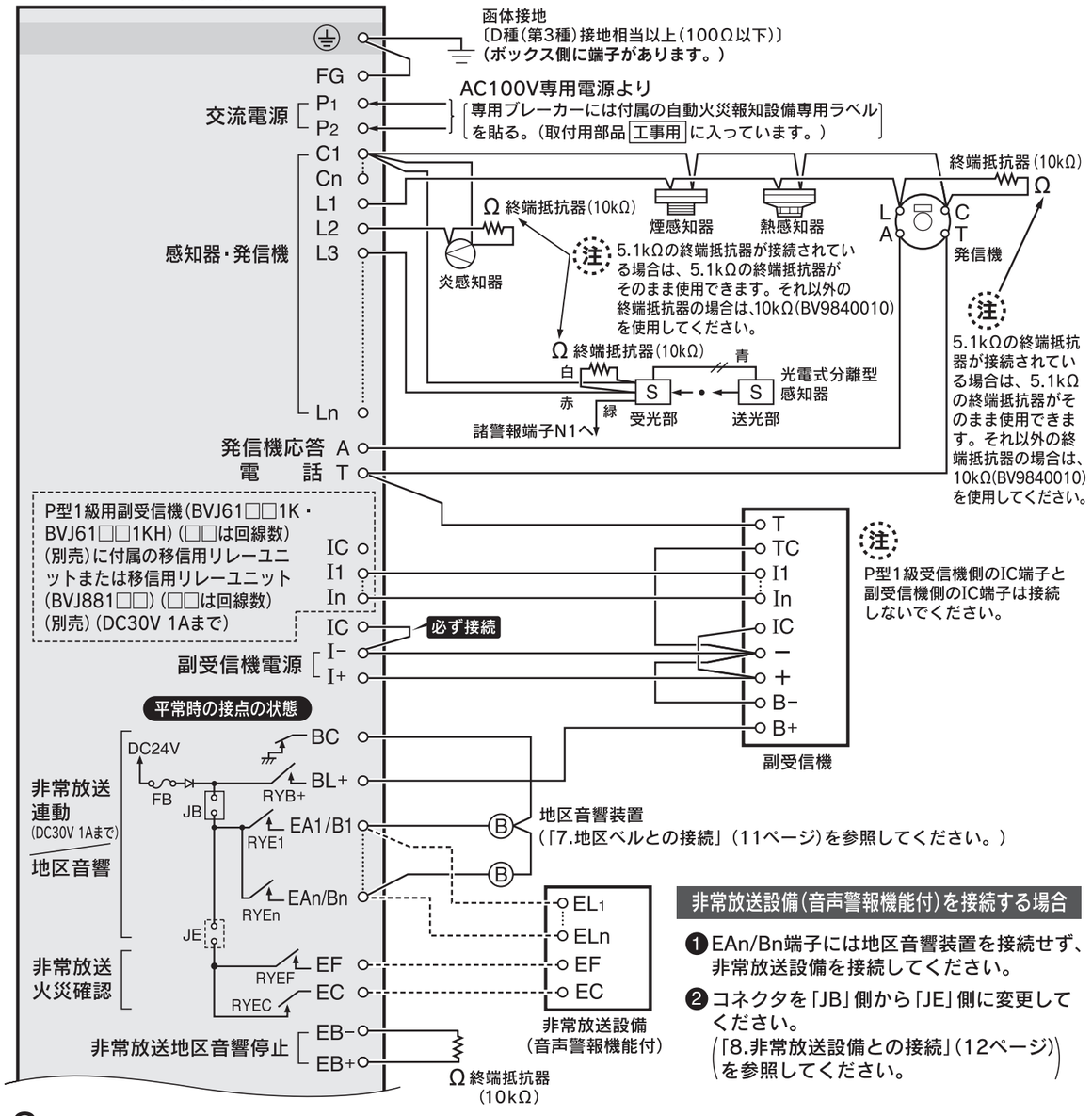
5. 全体の接続方法

⚠警告

- ●AC100V配線は確実に差し込んでください。感電や発熱・故障の原因となります。
- ●電線の差し込みが不十分な場合、誤動作・不動作の原因となりますので確実に差し込んでください。
- ●電源（AC100V）を切り、電池のコネクタを抜いた状態で施工してください。
  活線工事は感電や発熱・故障の原因となります。
- ●強電ライン・AC100V配線と小勢力配線はできる限り離して施工してください。
  強電ライン・AC100V配線が小勢力配線の近くにあると誤動作の原因となります。

注 非常放送設備を設置しない場合または地区音響を接続しない場合は、必ず終端抵抗器を受信機の非常放送地区音響停止端子（EB+—EB−）間に接続してください。
非常放送地区音響停止端子（EB+—EB−）間に終端抵抗器が接続されていないとトラブル灯が点滅し、トラブル確認した場合（取扱説明書35・36ページ参照）、回線選択表示窓に E2 が表示されます。

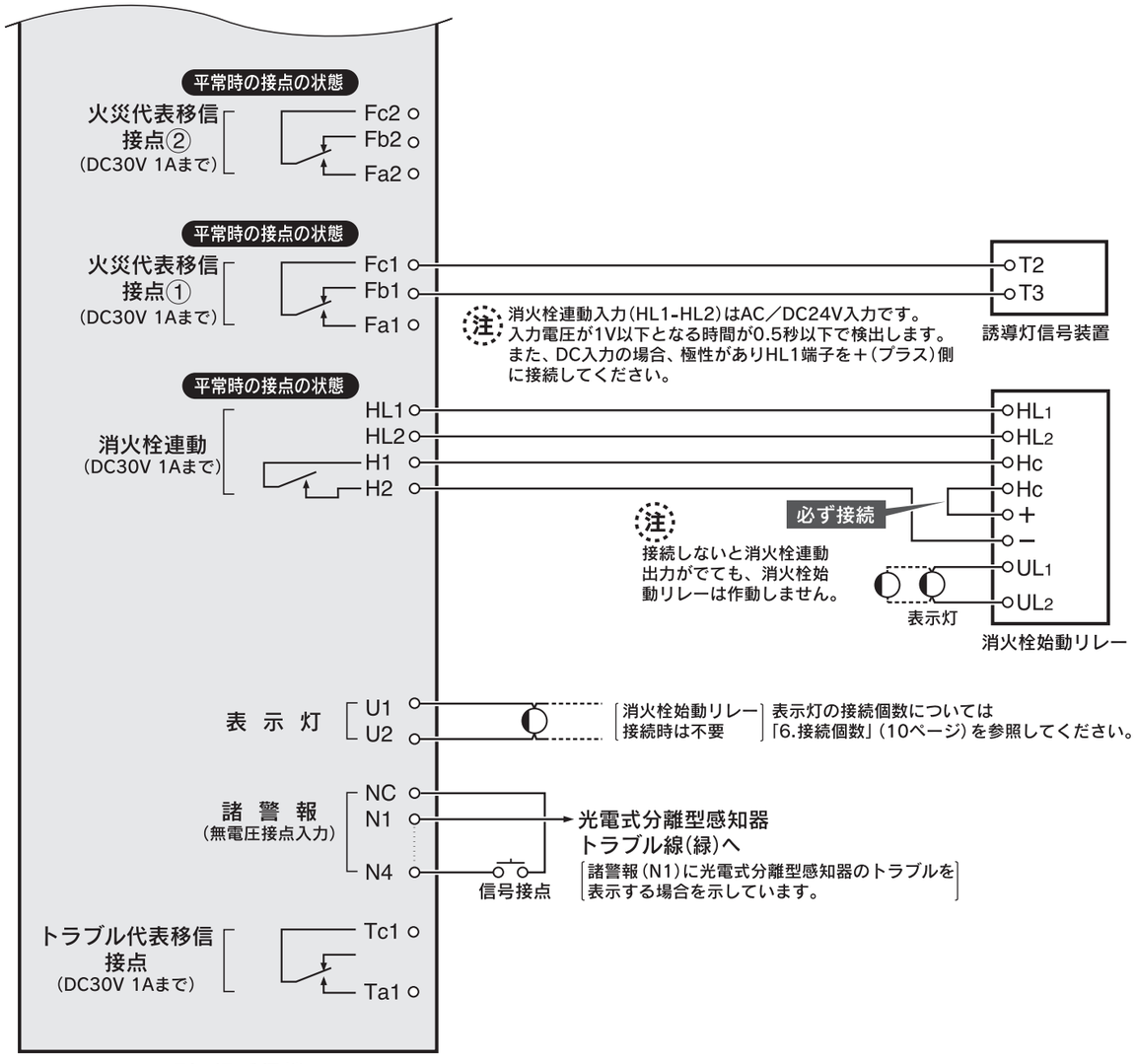
P型1級受信機



非常放送設備（音声警報機能付）を接続する場合

❶ EAn/Bn端子には地区音響装置を接続せず、非常放送設備を接続してください。

❷ コネクタを「JB」側から「JE」側に変更してください。
（「8.非常放送設備との接続」（12ページ）を参照してください。）



P型1級受信機

6. 接続個数

●配線方法は8・9ページを参照ください。

接続機器		接続個数
地区音響装置	DC24V 10mA	30コまで
	DC24V 30mA	10コまで
表示灯	発光ダイオードタイプ	20コまで
	白熱球タイプ（30V 2Wタイプ）	7コまで
感知器（1回線当たり）	Ⓐ 熱サイバーセンサ	80コまで
	Ⓑ 煙サイバーセンサ	30コまで
	Ⓒ 煙サイバーセンサ（熱検知機能付、2信号）	20コまで
	Ⓓ 光電式分離型	1セットまで
	Ⓔ 炎	20コまで

注 ●上記の感知器が混在する場合は、下記の方程式により接続数を決めてください。
Ⓐ＋4(Ⓒ＋Ⓔ)＋$\frac{8}{3}$Ⓑ≦80、Ⓓ＝1

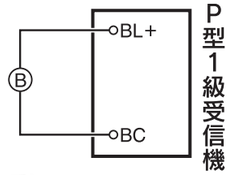
●光電式分離型感知器と他の感知器との混在接続はできません。

●熱感知器（一般型熱感知器・差動式分布型感知器・差動式スポット型感知器（試験口付））は、1回線当たりの接続数の制限はありません。

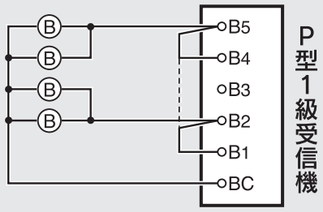
7. 地区ベルとの接続

注 1. 必ず受信機の地区ベル接続容量以内でご使用ください。
2. 建物のリニューアル時などで受信機を交換する場合は下記内容にご注意ください。
●地区ベルが当社BV9212・BV9213の場合はBV92631・BV92641に、当社BV9214・BV9214Kの場合はBV92541・BV92551に交換が必要です。
●地区ベルが他社製の場合は、地区ベルのメーカーに駆動方式が電磁式でないことを確認してください。電磁式の場合は、受信機の内部回路を破壊するおそれがあります。

【1】一斉鳴動



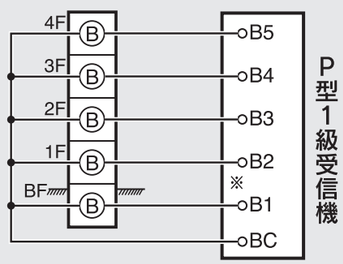
【2】ブロック鳴動



注 鳴動設定については設定マニュアル（17・18ページ）を参照してください。

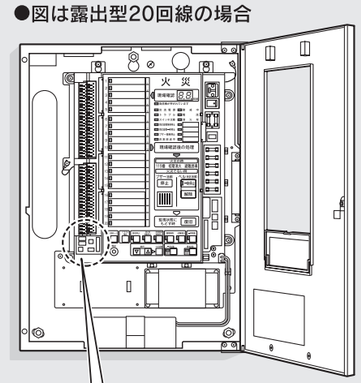
【3】出火階・直上階鳴動

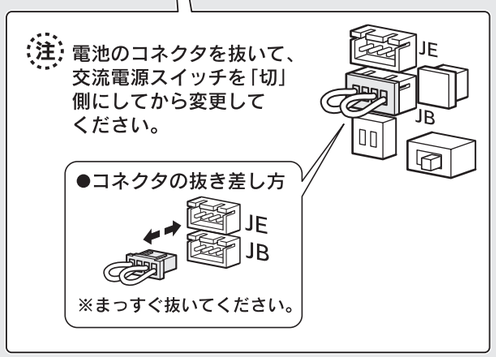
※地下階がない場合は、B1端子を使用しないでください。



注 鳴動設定については設定マニュアル（17・18ページ）を参照してください。

●図は露出型20回線の場合





●【2】,【3】の接続の場合、コネクタを「JB」側に変更してください。
（出荷時は「JB」側に接続してあります。）

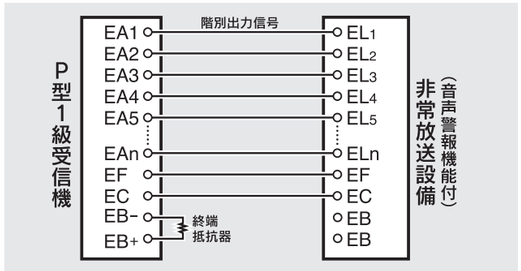
8.非常放送設備との接続

注 ●一斉鳴動移行時間(TC)の設定は、一斉鳴動移行停止スイッチを「移行停止(ON)」側に設定してください。(2ページ参照)
●接続後は受信機の電源を入れてから非常放送設備の電源を入れてください。
●絶縁抵抗試験をするときは、非常放送設備の内部回路が破損するおそれがありますので、必ず非常放送設備への配線をはずしてから行ってください。
●非常放送設備側の接続端子に終端抵抗器10kΩを接続してください。
●EC-EF接点が閉じるのは、発信機発報および感知器発報2回線以上の場合です。
一斉鳴動移行時間(TC)による動作では、EC-EF接点は閉じません。

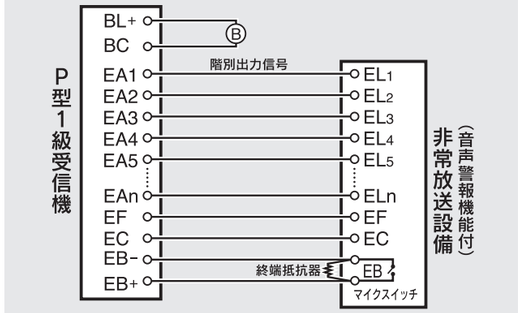
非常放送設備(音声警報機能付)

注 鳴動設定については設定マニュアル(17・18ページ)を参照してください。

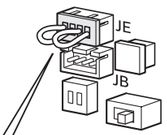
【1】地区ベルを接続しない場合



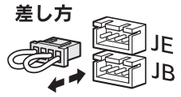
【2】地区ベルを接続する場合(一斉鳴動)



注 電池のコネクタを抜いて、交流電源スイッチを「切」側にしてから変更してください。

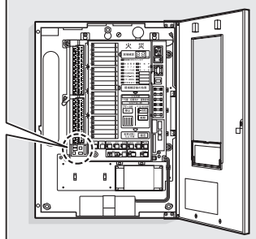


●コネクタの抜き差し方



※まっすぐ抜いてください。

●図は露出型20回線の場合

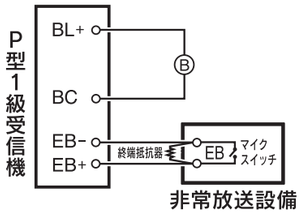


●【1】,【2】の接続の場合、コネクタを「JE」側に変更してください。
(出荷時は「JB」側に接続してあります。)

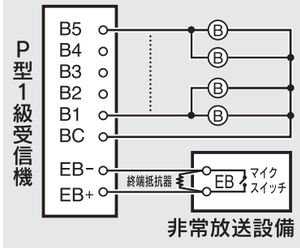
非常放送設備(音声警報機能なし)

注 鳴動設定については設定マニュアル(17・18ページ)を参照してください。

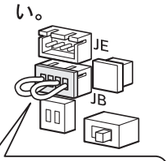
【1】一斉鳴動



【2】出火階・直上階鳴動



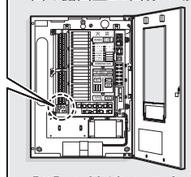
注 電池のコネクタを抜いて、交流電源スイッチを「切」側にしてから変更してください。



●コネクタの抜き差し方

※まっすぐ抜いてください。

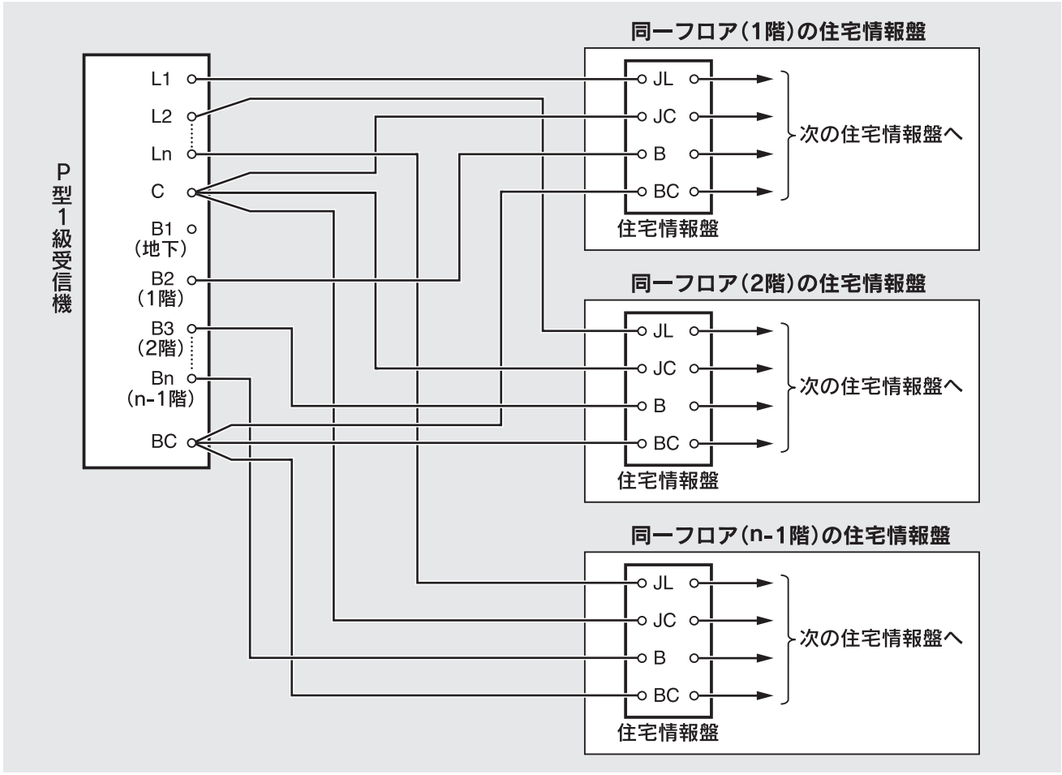
●図は露出型20回線の場合



●【2】の接続の場合、コネクタを「JB」側に変更してください。
(出荷時は「JB」側に接続してあります。)

9.住宅情報盤との接続

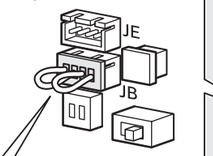
注 ●回線種別の設定は「自火報回線(非蓄積)」に設定してください。(設定マニュアル(11・12ページ)参照)
●地区音響鳴動設定(ソフト設定)が必要です。(設定マニュアル(17・18ページ)参照)
●一斉鳴動移行時間(TC)の設定は、一斉鳴動移行停止スイッチを「移行停止(ON)」側に設定してください。(2ページ参照)
●住宅情報盤は受信機の感知器端子(Ln, C)、地区音響端子(Bn, BC)を使用して接続してください。



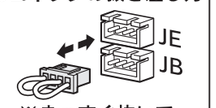
■住宅情報盤の接続個数

受信機の回線数	地区音響容量	住宅情報盤の接続個数
5・8・10・15・20回線	300mA	100コまで

注 電池のコネクタを抜いて、交流電源スイッチを「切」側にしてから変更してください。

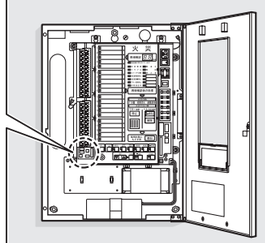


●コネクタの抜き差し方



※まっすぐ抜いてください。

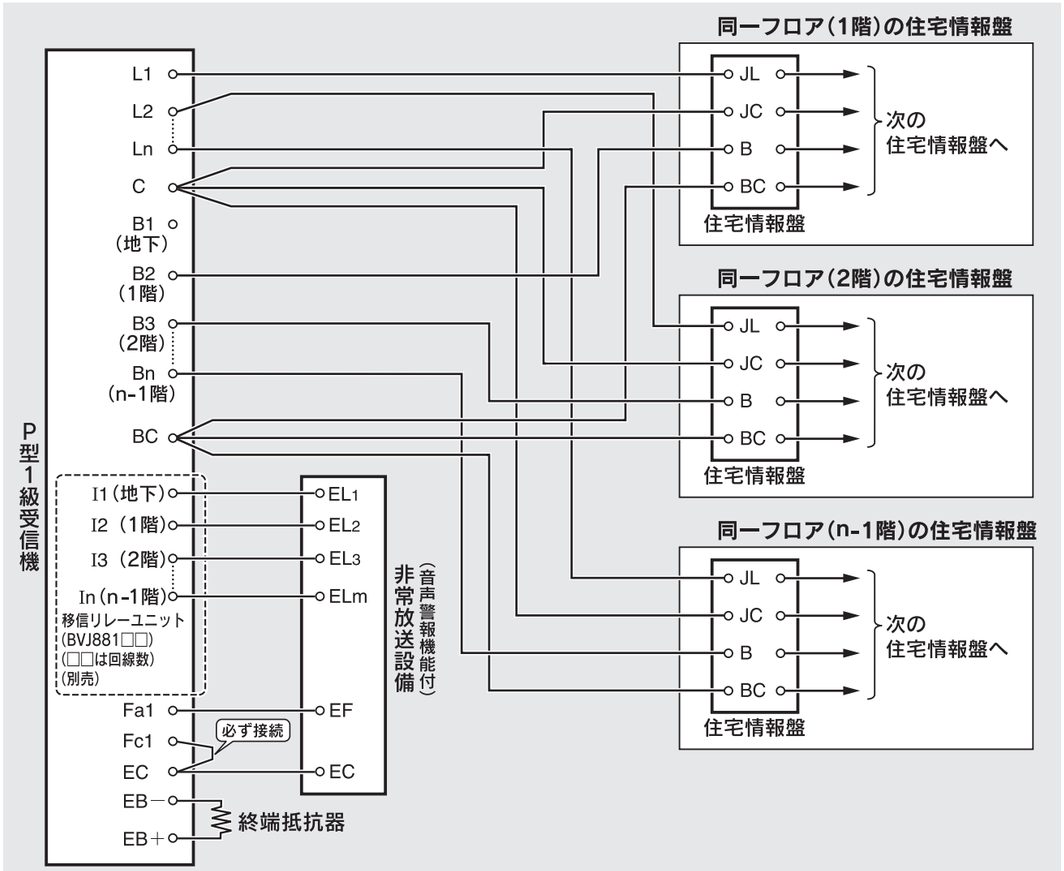
●図は露出型20回線の場合



●コネクタを「JB」側に変更してください。
(出荷時は「JB」側に接続してあります。)

10.住宅情報盤と非常放送設備(音声警報機能付)との接続

注 ●回線種別の設定は「自火報回線(非蓄積)」に設定してください。(設定マニュアル(11・12ページ)参照)
●地区音響鳴動設定(ソフト設定)が必要です。(設定マニュアル(17・18ページ)参照)
●一斉鳴動移行時間(TC)の設定は、一斉鳴動移行停止スイッチを「移行停止(ON)」側に設定してください。(2ページ参照)
●住宅情報盤は受信機の感知器端子(Ln, C)、地区音響鳴動端子(BL+, BC)を使用して接続してください。
●非常放送設備(音声警報機能付)との接続は移信リレーユニット(BVJ881□□)(□□は回線数)(別売)が必要です。

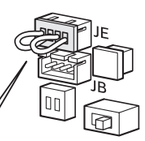


■住宅情報盤の接続個数

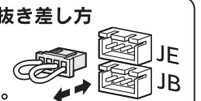
注 下表は共用部にP型3級受信機(BGH1301・BGH1301H)(別売)を3台接続した場合を示します。

受信機の回線数	地区音響容量	住宅情報盤の接続個数
5・8・10・15・20回線	300mA	94コまで

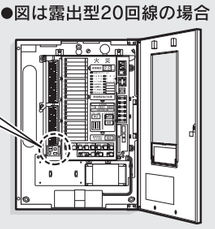
注
電池のコネクタを抜いて、交流電源スイッチを「切」側にしてから変更してください。



●コネクタの抜き差し方
※まっすぐ抜いてください。



●図は露出型20回線の場合



●コネクタを「JB」側に変更してください。
(出荷時は「JB」側に接続してあります。)

11.地区表示・諸警報表示・その他のラベル表示について

1. 地区表示

●取扱説明書の「地区ラベルの交換」(40ページ) を参照してください。

2. 諸警報表示

●取扱説明書の「諸警報表示部について」(42ページ) を参照してください。

3. 自動火災報知設備専用ラベル

●専用ブレーカーの近くに貼り付けてください。

12. 施工後の確認方法

●受信機は、下記の試験をしてください。

❶ 火災試験……取扱説明書　27・28ページ参照
❷ 一斉試験……取扱説明書　29・30ページ参照
❸ 電池試験……取扱説明書　31ページ参照
❹ 差動式分布型感知器（空気管式）の作動継続時間の測定方法
……取扱説明書　33ページ参照

●接続した感知器は下記の動作試験をしてください。

注 詳細は、各試験器に付属の取扱説明書を参照してください。

❶ 熱感知器（差動式・定温式・補償式スポット型）の場合は、加熱試験器で加熱試験をしてください。
❷ 煙感知器（光電式・イオン化式スポット型）の場合は、加煙試験器で加煙試験をしてください。

●絶縁試験をする場合

●外部配線相互間の絶縁試験を行う場合は、感知器・終端抵抗器・受信機の外部配線を切り離して行ってください。
また、絶縁抵抗が低下している場合は、周辺機器を破壊するおそれがあるので事前にテスターで抵抗値の確認を行ってください。

MEMO